

平素より、患者さんのご紹介をいただき、有難うございます。
当院では、小児科以外は予約制で診察を行っております。
患者さんのご紹介に際しましては、紹介状をご用意いただき
お取りいただきますよう、お願い申し上げます。

事前に必ず予約を

医療機関からの予約は 地域連携直通電話・FAX へお願いします。

TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545

- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
- ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 時間外の場合は FAX を送信してください。翌受付時間内にお返事いたします。

患者さんからの予約は 電話予約センター にて承ります。
予約センター電話番号 047-458-6600 (患者さん専用)

- ・ 最初に音声ガイダンスが流れます。紹介状をお持ちの患者さんは 1 を押していただきます。
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
- ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

■検査連携について

- ・ 検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。
- ・ 連携検査: CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみ

■やちよ夜間小児急病センターについて

- ・ 専用電話番号: 047-458-6090 (医療相談は行っていません)
- ・ 受付時間: 18:00～23:00
- ※ 予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

医療支援室より ～ 新スタッフ紹介 ～

4月より退院支援看護師が1名増員となりました。

この度、医療支援室へ、退院支援担当として配属となりました。退院支援が医療サービスの一環として効率的に展開できるように努めて参ります。医療支援室がモットーとする「顔の見える地域連携」に加え、「医療の主体は受け手である」という視点に立ち、より一層、地域との連携強化を図っていただけるように、医療支援室スタッフ一丸となって力を注いで参りたいと思います。

今後とも、皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

医療支援室 看護師長 町屋 千鶴子



前列: 田中 MSW、縄島 MSW、長井師長、町屋師長、島垣 MSW
後列: 熊谷、佐藤、菅野 (地域連携担当事務)
撮影時不在: 村松 (地域連携担当事務)

〒276-8524

千葉県八千代市大和田新田 477-96

(代表)047-450-6000

医療支援室 TEL 047-458-6543

FAX 047-458-6545



新たな五カ年の始まりの年を迎えて

八千代医療センターは、昨年末に5歳を迎え、新年度である平成24年度が始まりました。昨年3月には東日本大震災が発生し、発災直後より災害拠点病院である当院に計画停電が7日間も実施され、国の危機管理の無計画さを痛感したものでした。その後、当院は千葉県チームに加わり陸前高田市の医療支援をおこないました。その後も佐藤二郎手術部長を中心に、宮城県知事の要請のもと気仙沼市や登米市の支援を現在もおこなっています。また日本小児科学会の要請を受け、いわき市の医療支援を小児科がおこないました。今年の夏からは、秋田県で最も被災者の受け入れの多い仙北市への医療支援を小児科が開始します。このように、当院は八千代市市民の健康を守り、同時に、微力ではありますが東北地方の医療支援にも協力していきたいと願うものです。

開院5年目となった平成23年度は区切りの年となりました。4月からDPC算定を開始し、地域医療支援病院として地元診療所や人口171万の東葛南部2次医療圏の病院と連携を深めて参りました。直近の紹介率は68%、逆紹介率も50%を超えております。3月には厚生労働省が新たに認定した高密度診療病院に千葉県がんセンター、船橋市立医療センター等とともに選ばれました。高密度診療病院とは、医療密度、医師研修機能、高度な手術治療、重症者の受け入れをすべて満たした病院で、国が全国のDPC1500病院から90病院を選びました。更に、平成23年度の重点課題として取り組んできた増床計画が千葉県に認められました。災害医療、救命救急センター化による救急・集中治療、癌や循環器などの高齢者医療、周産期・小児医療への更なる充実を図った計画で、千葉県からも大きな期待を頂いております。増床計画の申請にあたっては、八千代市や八千代市医師会の多大なご支援をいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

現在、355床による厳しい病床運用をしておりますが、将来計画の実現により地元住民や地域の先生方のご期待に添えるものと期待しております。そして、平成23年度には初めて単年度収支の黒字化を達成することが出来ました。これも地域の先生方のご指導、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、平成24年度は新たな五カ年の始まりの年となるものと期待しております。この五カ年では、災害医療を推進することで住民の皆さんが安心して暮らせる地域づくりに寄与したいと考えております。その最初の年となりますが、救急・集中治療の整備に取り組みます。新任の貞廣救急科科長が23年度から準備をしてきました。画像診断・IVR科、麻酔科、内科部門、外科部門と連携して救急・集中治療の整備をおこなっていきます。同時に、心臓血管外科診療を開始いたします。これも新任の齋藤心臓血管外科科長を中心に、春田循環器内科科長、二階堂臨床工学技士、看護部門の循環器チームが準備をして参りました。

病院はいざという時に総合力が問われます。救急・集中治療、心臓血管外科診療は病院の総合力に欠かせない領域です。そして、将来を担う医療者の育成にも力を入れて参ります。どうぞ、今後ともご指導をよろしくお願い致します。

平成24年6月

病院長 寺井 勝

救急科ご案内

救急科・集中治療部は県内でも数少ない救急および集中治療の専従医を7名擁し、平成24年4月より新体制でスタートしました。当院がこれまで通り八千代市を中心とした地域の基幹病院としての役割を果たせるよう、主に救急車で搬送される2次、3次救急患者さんへの初期対応と救命処置さらにはそれに引き続く集中治療をシームレスに行なってまいります。緊急度、重症度の高い症例については是非、救急科にご連絡ください。迅速に対応いたします。

また当院の成人ICU/CCUは計12床あり、24時間体制で集中治療医が中心となって重症患者管理を行っています。MEセンターの協力の下、人工呼吸器や各種血液浄化療法はもとより、大動脈バルーンポンピング、経皮的な心肺補助など様々な人工臓器を駆使した集中治療を行うことが可能です。専門診療科の先生方と協力して診療を行うことで、脳卒中や急性冠症候群、多発外傷、多臓器不全、急性呼吸窮迫症候群、敗血症性ショックなど内科系、外科系を問わずあらゆる重症患者に対応しています。

今後はさらに充実した救急対応を行うことができるよう、救命救急センター化も視野に入れて活動していきます。新しい体制となった救急科・集中治療部に、皆様からの温かいご支援、ご協力を賜りますよう、どうかよろしくごお願い申し上げます。

救急科 科長 貞廣 智仁 (さだひろ ともひと)



※ 総合診療外来は休止しております。救急科は救急車搬送の患者さんのみの対応となります。

2012.4 新設いたしました

心臓血管外科ご案内

2012年4月より心臓血管外科を開設いたしました。いままで八千代市外の病院へ搬送が必要であった冠動脈バイパス術、弁膜症に対する手術、大動脈瘤に対する人工血管置換術などが当院にて手術可能となります。また重篤な症例も東京女子医大本院の心臓血管外科チームと連携し治療を担当いたします。

冠動脈バイパス術は、人工心肺装置を用いないオフポンプ手術と従来のオンポンプ手術を症例により選択し施行いたします。

大動脈弁疾患では近年高齢者の大動脈弁狭窄症に対する弁置換術が安全に施行可能となり、その適応は80歳代の患者様にも拡大しております。今後、本邦でも弁膜症のカテーテル治療が保険適応となると予想されますが、スタッフと設備の充実を図りつつ対応に努めてまいります。

僧帽弁疾患では僧帽弁閉鎖不全症に対する自己弁を用いた形成術が第一選択です。術後ワーファリンによる抗凝固療法が不要となる方も多く、患者様のQOL向上に寄与しております。

大動脈瘤に関しては人工血管置換術が適応となります。ステント内挿術に関しては本院スタッフと協力し治療可能です。大動脈解離、動脈瘤破裂など緊急手術にも対応いたします。

患者様のご紹介、手術適応に関するご相談等、どうぞお気軽にご連絡ください。

心臓血管外科 科長 齋藤 博之(さいとう ひろゆき)

※ 外来は毎週月曜日の午前中ですが、その他の曜日でも対応可能な場合がありますので、お問い合わせください。



救急科
科長 貞廣 智仁



心臓血管外科
科長 齋藤 博之

八千代医療センターでは千葉県脳卒中連携パスを採用しています。 かかりつけの先生方のご協力をお願いいたします。

脳卒中の患者さんに質の高い医療と手厚い福祉・介護を提供するためには、脳卒中の専門医・かかりつけ医などの医療者と、リハビリテーション・介護等に関わる福祉・看護担当者が、患者さんに関する情報を共有して綿密な連携をとることが重要です。

当院では平成20年に『八千代地区脳卒中連携の会』を立ち上げ、八千代地区における脳卒中の地域連携を推進してきました。隣接地域の印旛脳卒中地域連携パス(InCliPS)や東葛南部医療連携パス研究会(TNパスネット)にも参加して、医療圏を超えた脳卒中連携を実現しました。

平成21年に『千葉県共用脳卒中地域医療連携パス(CAMP-S)』の運用を開始し、年間100人以上の患者さんに使用しています。CAMP-Sは、回復期病院やかかりつけ医の先生方に必要な情報をもれなく提供するための接着パスになっており、また地域生活期でのリスク管理や介護・福祉との連携ツールとしても役立ちます。

平成22年度診療報酬改訂では「地域連携診療計画退院時指導料(Ⅱ)」が新たに設けられました。当院で急性期治療を行い、回復期リハビリテーションを終えて在宅復帰した患者さんの療養(入院以外)を担う医療機関で算定できます。

脳卒中の発症・再発を減少させるためには、一次予防・二次予防を徹底することが重要であり、かかりつけ医の先生方の脳卒中地域連携への参画が欠かせません。かかりつけ医の先生方には、在宅復帰した患者さんの厳格なリスク管理をお願いいたします。急性期病院と回復期リハビリテーション病院では脳卒中発症1年後にフォローアップをさせていただきます。

現在、地域生活期におけるCAMP-Sの運用の普及を進めているところです。かかりつけ医の先生方のご協力をお願いいたします。

クリニカルパス委員会・委員長 神経内科 科長 大橋 高志



各診療科 News

★糖尿病教室を実施しています。

糖尿病の病態や合併症について、検査値の読み方、薬やインスリンの働き、フットケアやシックデイの対応の仕方、気になる毎日の食事の工夫や間食についてなど、毎週木曜日15時から約1時間半、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・管理栄養士が約20分ずつ持ち回りでご説明いたします。2週間で1クールとなっており、いつからでもご参加いただけます。

対象は八千代医療センターの外来、または入院患者さんとそのご家族です。ご参加希望の患者さんがいらっしゃいましたら、まず、糖尿病・内分泌代謝内科にご紹介ください。



糖尿病食の一例

★八千代アゼリア会

「八千代アゼリア会」は、八千代医療センターで糖尿病の治療を受けている患者さんおよびそのご家族の会です。当院の医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士等の糖尿病療養スタッフが運営に参加しています。

- 主な活動内容 ・歩こう会 ・糖尿病勉強会
新しい会ですので、これから交流できる企画を考えていきます。
- 入会方法
入会される方の氏名・住所・電話番号を下記までお送りください。

FAX : 047(458)7058

E-mail :
azeria@tymc.twmu.ac.jp

★耳鼻科外来について

2012.4より 火、水、木曜のみ、非常勤医師による外来診察(予約制)を行っております。

火曜日午前: 西嶋文美
水曜日午前: 武藤博之
木曜日午前: 山本昌彦

◎入院・手術を伴う耳鼻科疾患につきましては他病院へ紹介させていただいております。何卒ご了承ください。

★呼吸器内科より「禁煙外来」のご案内

健康のため今年こそ禁煙を決意したけれど吸ってしまった、という方が多いかと思います。自力でやめにくいのは、喫煙が、ニコチン依存症という病気だからです。病気であるため、病院での禁煙外来で、薬による治療とサポートを受けた方が禁煙を成功しやすくなります。該当する患者さんに当院禁煙外来をお勧めください。

曜日: 毎週木曜午後 担当: 浅野明日香医師
* まず「禁煙相談」(自費: 3,150円)をご予約ください。